

原発 絶対ゼロに

官邸前行動 苦しみ変わらない

東日本大震災から5年。東京電力福島第1原発事故から5年。福島島の苦難を忘れず、原発再稼働を許さないという思いで続けてきた原発なくせの官邸前行動には11日も、多くの市民が詰めかけました。

官邸前行動が始まった2012年の夏から参加してきたのは、神奈川県藤沢市の松本和美さん(67)。「事故が起きるまで、原発について真剣に考えてこなかった」と悔やみ、手

作りのプラカードを首から下げて声を上げ続けてきました。実家のある愛媛県には伊方原発があります。再稼働反対の座り込み、いところ一緒に参加しました。

「事故から5年たちましたが、いまだに避難生活を送り、故郷に帰りたくても帰れない、苦しんでいる人たちがたくさんいます。でも政府は変わったかのように宣伝し、『危険ではない』と言う。とんでもありません。」

絶対的に原発ゼロにするという思いで私たちが主体的に行動を続けていきます」

「声をあげなきゃいけない」引き締まった表情で語るのは武蔵野市から参加した今野優之さん(21)です。

昨年の安保法制反対のデモに参加したことがきっかけで、デモや集会に参加するようになりまし。

「脱原発の集会は今日が初めてです。寒さを吹き飛ばすような熱気ですね」と周りを見渡しました。

「原発事故から5年 たっても多くの人が帰れない状況は異常。危ない原発はなくすべきです」と憤ります。

「野党共闘が一歩ずつ進んできてうれしいです。大歓迎です」と笑顔で語り「市民に薄情な政策を取る安倍さんには即刻退場してもらいたいです」と話しました。